

一生懸命はすばらしい

去年の11月、私は孫の幼稚園の運動会を見に行きました。幼稚園ですので、3歳から5歳の子どもがいます。とってもかわいかったですよ。

3歳の子どもたちは、走るのだけで精一杯です。まっすぐに走るのも難しいのです。だから、ふらふら走って、やっとゴールする子もいました。ゴール寸前まで来てUターンしてしまう子もいました。中には、走りながら泣き出してしまう子もいました。でも、一生懸命な姿を見ていると思わず「がんばれ！」と応援したくなりました。

5歳の子どもはさすがです。まっすぐ走って、堂々としていました。そして、「ソーラン節」という踊りを踊っていました。小学校の運動会で「女学館ソーラン」を踊ることがあると思いますが、それを少し簡単にしたものです。力強く立派に踊っていました。そして、汗を流しながら一生懸命でした。同じ幼稚園の中でも、こんなに成長するのだなと感心しました。

幼稚園の運動会を見ていて思ったことが一つあります。それは、「一生懸命はすばらしい」、「一生懸命はカッコいい」ということです。幼稚園の子どもですから速く走ることはなかなか難しいです。力強く踊ることは難しいです。でも、なぜか応援したくなるのです。拍手を送りたくなるのです。それは、一生懸命走っているから、一生懸命踊っているからです。一生懸命は見ている人の心に響きます。人の心を揺り動かすのです。きっとこれを「感動」と呼ぶのでしょうね。

体操朝会の時、体育委員会の人たちは前でしっかりラジオ体操を教えてくださいます。鼓笛隊の演奏やバトンクラブの行進は一生懸命です。だれ一人話をしている人はいません。一生懸命ですね。だからカッコいいのです。授業中、一生懸命考える姿はすばらしいです。一生懸命読書している姿を見ると応援したくなります。

今日はとなりに児童委員のお姉様がいます。少し聞いてみましょう。

「〇〇さん、今、一生懸命に取り組んでいることはありますか？」

もうすぐ、展覧会が開催されます。体育館にはたくさんの作品が静かに並びますが、その作品を見ていると、皆さんが一生懸命取り組んだことがわかるものです。東京女学館小学校に、たくさんの一生懸命があるといいですね。